

JR東海労働組合 鳥飼ニュース

発行者 大阪仕業検査車両所分会
大阪修繕車両所分会
大阪交番検査車両所分会
大阪台車検査車両所分会
井戸掘削工事 問題シリーズ NO. 4
2015年 1月 7日

JR東海会社のいう ■「地盤沈下」の恐れはありません？ ■地域住民の皆さんに貢献？ これってホントなの！！

鳥飼基地で働く全ての皆さん！JR東海会社は昨年11月26日、HPトピックスの中で、「災害時にも新幹線の運行に支障が出ることがないように井戸水を安定的に活用する取組を進めています。」と説明しています。そのあとに「深い位置（地下150～200cm）でくみ上げていくものであり、問題はないと考えています。」「設置するこの井戸を災害時に給水を受けられない基地近隣住民の皆さんにご利用いただくことも考えています。」と書かれています。そして最後に「※この計画は摂津市と結んでいる環境保全協定の適用は受けないと考えています。」と表面では「災害時対応」を前面に出して主張していますが、本音はやはり自社の「営利優先」のためとしか理解できません。（HP参照）

子や孫に新幹線の悪口は言わせないでほしい！

昨年12月9日、摂津平和人権センターが主催する「不戦の集い」の中で長年地盤沈下によって「生活不安」を余儀なくされたKさんが現状を切々と訴えられていました。そして話の締めくくりに「子や孫に新幹線の悪口は言わせないでほしい」ということをいわれていました。このことは、子や孫達に将来にわたってもうこれ以上「生活不安」を与えない「地域に親しまれる」新幹線であって欲しいということだと思います。

私たちは、地域住民を犠牲にし「鳥飼基地」の安全を損なう「井戸掘削」に反対します

私たちは昨年12月26日、「井戸掘削」反対のために4分会合同の職場集会を開催しました。集会では近隣住民を犠牲にし鳥飼基地の安全を損なう「井戸掘削」反対の意思統一を行ってきました。Kさんが締めくくりにいわれた言葉は私たち労働組合が責任をもって守っていかなければならないことです。

今一度、公共交通機関を預かる企業に対してそこに働く労働者・労働組合がチェック機能を遺憾なく発揮していかなければなりません。そのことを他労組にも問いかけながら、しっかりと近隣住民の声に耳を傾けて行きたいと思えます。



東海道新幹線鳥飼車両基地における井戸水活用の目的について

東海道新幹線は、日本の大動脈である東京～名古屋～新大阪間を結び、1日に約340本の列車を運行、約42万人という多くのお客様にご利用いただいています。

そのなかでも鳥飼車両基地は新幹線の運行に欠かすことのできない西の拠点となっており、車両の定期検査のほか、列車のトイレや洗面所への給水、車内清掃などを24時間体制できめ細かく行っています。

現在当社ではこの鳥飼車両基地の茨木市エリアにおいて、災害時に上水道が断水した場合においても、列車への給水や車内清掃ができず新幹線の運行に支障が出るということがないように井戸水を安定的に活用する取組みを進めています。



■新幹線の運行に水は不可欠 ～井戸水を安定的に活用し、災害時も運行を確保～

災害時に上水道が断水して、鳥飼車両基地で水が使えなくなった場合、新幹線のトイレや洗面所に給水できないため、トイレは流せず、洗面所も使用不可、さらに車内の清掃もできず、不衛生な状態となります。このため車両が使用できず、長期間、新幹線の運行ができなくなる可能性があります。このような災害時には、住民の皆様のご生活用水の確保が最優先されることは言うまでもありません。しかし一方で、災害時の復興等に向け東海道新幹線の早期運転再開が求められることも事実です。

このため当社では日頃から井戸水を安定的に活用することで水を確保し、災害時においても新幹線を運行できるよう、鳥飼車両基地内の茨木市エリアに自ら井戸を設置する計画を進めています。なお、井戸が故障した場合に備え、上水道も併用していく考えです。こうした取組みは、他の車両基地や災害時に多くのお客様が滞ることが想定される大規模な駅でも行っています。

■地盤沈下のおそれはありません

地盤沈下は一般的に浅い位置で地下水を多く汲み上げた場合に起きるとされていますが、この計画は工業用水法に基づき、深い位置(地下150～200m)で汲み上げるものであり、問題はないと考えています。また現在井戸水が毎日相当量汲み上げられている北摂地域や茨木・摂津市域で地盤沈下が生じていないことを考えれば、この計画程度の汲み上げ量(750立方m/日)が加わっても、周辺で地盤沈下が起きるおそれはないと考えています。

なお万全を期すため、井戸完成前の試験・確認及び完成後には地下水位の状況を確認に把握(モニタリング)し、地盤沈下のおそれがないことを確認していきます。

■地域の皆様への貢献

昨今、災害が発生して断水し、住民の皆様のご生活用水の給水が滞った場合に備え、避難所等に井戸を設けて「給水拠点」として活用しているところもあると聞きますが、当社が鳥飼車両基地に設置するこの井戸を災害時に給水を受けられない基地近隣住民の皆様にご利用いただくことも考えています。



環境に配慮しながら計画を進めてまいりますので、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

※この計画は摂津市と結んでいる環境保全協定の適用は受けないと考えています。